

平成 30 年 5 月 30 日現在

機関番号：21601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26860348

研究課題名(和文) インターネット・コミュニティで医療人が起こしうるモラルハザード問題を考える

研究課題名(英文) Unprofessional behaviors in the use of social media by medical students and healthcare professionals

研究代表者

諸井 陽子 (Moroi, Yoko)

福島県立医科大学・医学部・助手

研究者番号：20443872

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：スマートフォンやインターネットに代表されるICTサービスが急速に発達する一方で、これらを使用した道徳観・倫理観の欠如による問題行動(モラルハザード)が発生している。医療職による不適切な問題も発生しており新たに教育すべき内容と考えられる。しかしながら医療人がインターネットを介して発信した倫理観の欠如によると考えられる問題を報道から抽出し、事例をカテゴリー化した報告は少ない。本研究では問題行動がいくつかのカテゴリーに類型化できること、日本では悪ふざけが動機となった行動が少ないことを明らかにした。さらに、医療人教育への教育活用をはかるためソーシャルメディア利用に関するチェックリストの作成を行った。

研究成果の概要(英文)：Smartphones, social networks, blogs, and other forms of online communication have created the ability for medical students and healthcare professionals to communicate and share information quickly with a large group of people. However, unprofessional behaviors such as violating the confidentiality of patients' personal information seems to be increasing. We searched for news of unprofessional online behaviors by medical/nursing students and healthcare professionals in Japan for these 10 years via keyword search on the Internet. A combination of patient privacy violations and profanity was observed in many cases, and it is assumed that such actions were made to share feelings of disgust or anger toward patients through social media. The development of ethical education programs regarding the use of social media is essential for both students and healthcare professionals, in order to prevent a variety of future acts of unprofessional behaviors.

研究分野：プロフェッショナルリズム

キーワード：倫理教育 インターネット ソーシャルメディア チェックリスト SNS ICT モラルハザード

1. 研究開始当初の背景

情報通信技術 (ICT サービス) の進歩と普及に伴い、インターネット上の倫理観の欠如 (モラルハザード) による問題が増加している。来院した有名人の診療情報をインターネット上に書き込む守秘義務違反、患者への不満を書き込む誹謗中傷等も発生しており、社会的な問題になっており、医療を志す学生や医療者という社会的な立場をふまえて、事例に基づいた倫理教育プログラムの開発・導入が重要であると考えられる。しかしながら、この問題に対して、医療人が有効かつ効果的な教育の機会を得ているとは言い難い現状である。

2. 研究の目的

本研究では、医療人が起こしうるインターネット・コミュニティ上でのモラルハザード問題の発生に及ぼす要因を明らかにするとともに、医療人の医療倫理に関する認識・解釈の程度と情報倫理行動の現状を探り、医療に関するモラルハザード問題の発生を未然に防止するための教育方略を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

2005年1月から2014年12月までに日本国内で発生した、医療系学生および医療者がインターネットを介して発信した、倫理観の欠如によると考えられる問題を、新聞記事データベースおよびインターネット検索エンジンにより抽出し、カテゴリー化した。

4. 研究成果

(1) 医療系学生および医療専門職がインターネットを介して発信した倫理観の欠如によると考えられる問題を抽出して解析した。医療系学生による事例が8件、医療専門職による事例が12件であった。性別は、男性8件、女性8件、不明4件であった。年齢は、

10歳代3件、20歳代7件、30歳代1件、不明9件であった。内容は、守秘義務違反10件 (学生3、医療職7)、悪ふざけ6件 (学生2、医療職4)、誹謗中傷5件 (学生1、医療職4)、試験等での不正行為2件 (学生2) であった。媒介メディアは、ツイッター6件、フェイスブック5件、ミクシィ2件、電子掲示板2件、ブログ2件、ホームページ1件、電子メール1件、ファイル共有サイト1件であった。問題事例に対する措置は、厳重注意3件、停学3件、懲戒解雇1件、停職1件、自主退学1件、内定辞退1件、不明10件であった。

これらの事例は、「守秘義務違反」「悪ふざけ」「誹謗中傷」「不正行為」の4つのカテゴリーに分類された。守秘義務違反は医療者が、不正行為は学生が引き起こした件数が多く、悪ふざけと誹謗中傷は両者が引き起こしていた。また、誹謗中傷を守秘義務違反と一緒に挙げる事例が多く、患者への反感や怒りへの共感をインターネット上で求める行為と考えられた。

海外においても、医療人によるインターネット上のモラルハザード問題が報告されているが^{1),2)}、本調査では、海外で発生した事例のカテゴリーに含まれない「悪ふざけ」が少なくないことを明らかにした。

(2) 抽出した事例より、学業および業務に関する事例を抜き出し、これらの事例において問題となる行為をリストアップして、「医学・医療情報の取り扱い」「守秘義務違反、プライバシーの保護」「悪ふざけ、プロフェッショナリズム」の3つに分類されることを明らかにした。

これらの問題行為から、医療人教育に特化したソーシャルメディア利用のためのチェックリストを作成した。チェックリストは、学習者が容易に理解できるように、短文の質問形式として、具体的な注意事項を盛り込んだ。

今後は、このチェックリストの教育活用化を進めるための教育プログラム開発を実施する予定である。

<引用文献>

1) Brynolf A, et al. Virtual colleagues, virtually colleagues--physicians' use of Twitter: a population-based observational study. *BMJ Open*. 2013 Jul 24;3(7)

2) Chretien KC, et al. Physicians on Twitter. *JAMA* 2011; 305: 566-568.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 石川和信. 医療系学生・医療専門職が起こしたインターネット上のモラルハザード事例. *医学教育*. 2016; 47(3): 185-187. 査読有り

[学会発表](計7件)

Moroi Y, Kobayashi G, Sugawara A, Ishikawa K. Implementation of medical professional education utilizing social networking service with an evidence-based checklist. *Association for Medical Education in Europe (AMEE) 2017*. Helsinki, Finland. 5DD04: 326, 2017.

Moroi Y, Kobayashi G, Sugawara A, Ishikawa K. Unprofessional behaviors in the use of social media by medical students and healthcare professionals in Japan. *Association for Medical Education in Europe (AMEE) 2016*. Barcelona, Spain. #703: 132093. 2016.

諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 石川和信. ソーシャルメディアを介した医療人モラルハザード事例と医学生の潜在的リスク感覚は類似した. 第49回日本医学教育学会大会. 2017.

諸井陽子, 小林 元, 菅原亜紀子, 石川和信. モラルハザード事例に基づいた医療人ソーシャルメディア利用チェックリスト. 第9回東北シミュレーション医学教育研究会. 2017.

諸井陽子. 医療人を対象としたソーシャルメディア利用チェックリスト. 第43回総合科学研究会. 2017.

諸井陽子, 小林元, 菅原亜紀子, 石川和信. ソーシャルメディア利用のための医療人向けチェックリスト作成の試み. 第48回日本医学教育学会大会. 2016.

諸井陽子, 小林元, 菅原亜紀子, 本谷亮, 石川和信. 医学生・医療人が起こしたインターネットを介するモラルハザードのレビュー. 第47回日本医学教育学会大会. 2015.

6. 研究組織

(1)研究代表者

諸井 陽子 (MOROI, Yoko)
福島県立医科大学・医学部・助手
研究者番号: 20443872

(2)連携研究者

石川 和信 (ISHIKAWA, Kazunobu)
国際医療福祉大学・医学部・教授
研究者番号: 80222959

小林 元 (KOBAYASHI, Gen)

国際医療福祉大学・医学部・講師

研究者番号：20423791

菅原 亜紀子 (SUGAWARA, Akiko)

福島県立医科大学・医学部・助教

研究者番号：40566808